

## 社会貢献活動の考え方

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICTを活用してお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

社会貢献活動においては、「ICTの裾野の拡大」「挑戦の支援」「地域との共生」「環境」の4つを柱に、多種多様なステークホルダーと連携した活動を展開しています。

なお、活動の活性化とベストプラクティスの共有を目的に、活動の実施記録を社内システム上で蓄積・公開しています。また、そのデータベースを活用した社会貢献活動の社内評価制度を設定し、2013年度中の運用開始に向けて検討を進めています。



### ボランティア活動支援制度

社員のボランティア活動を支援するため、以下の制度を設けています。

- 青年海外協力隊／シニア海外ボランティア参加のための休職制度：最高3年間
- 積立休暇：年5日支給とし、最高20日まで積立可（ボランティアを含む特定の目的に利用）

### 富士通JAIMEの運営



富士通JAIMEの母体である「JAIME」は、1972年に富士通の提唱によって設立された非営利の教育研究法人です。日米の架け橋となる人材の育成を目的として、東洋と西洋の文化が融合するハワイに拠点を設置し、活動を推進してきました。55カ国から約23,000名の卒業生を輩出したほか、2006年に外務大臣表彰を受賞するなど、JAIMEの活動は国際交流を促進させるとともに、対外的にも高く評価されてきました。



JAIMEの学生たち

2012年7月、この活動を、近年グローバルビジネスで特に重要な役割を果たしているアジアと連携させるために、「一般財団法人富士通JAIME（以降、富士通JAIME）」を日本に設立しました。さらに、2013年4月には、これまでハワイにあったJAIMEの本部機能を富士通JAIMEへ移管しました。アジア・パシフィック地域の人材開発と知の共創による新たなコミュニティー開発に貢献することをミッションとして、グローバルビジネス社会で能力を発揮できるビジネスリーダーの育成を目指しています。

富士通JAIMEが提供する主なプログラムは、知識創造理論の世界的権威である野中郁次郎氏（一橋大学名誉教授）のビジョンに基づき開発した国際マネジメントプログラム「Global Leaders for Innovation and Knowledge : GLIK」です。「地域に密着しながらグローバルな視点で、より善い未来を自らの手で創る人材、変化する状況の中で本質を洞察しながら判断し実行するイノベーションリーダー（実践知リーダー）を育成すること」を目的としています。GLIKでは短期間（約3.5カ月）にアジア・パシフィック地域（日本・ハワイ・タイ・シンガポール）で学び、自ら変革し実行する力とリーダーシップを鍛えます。アジアからの留学生との切磋琢磨、各分野で実績をもつ先鋭の講師陣や、各国での有識者との対話などの実践を通じ、実践の中でグローバルな視点・異文化感受性、多様性の中で協働する力を練磨します。そのほかにも、1週間程度で留学を体験するハワイ短期ビジネススキルアッププログラムなど、各種プログラムを提供しています。

JAIMEの設立以来、富士通は、運営資金の拠出に加えて活動を支援する組織を社内に設置し、日本国内での宣伝広告および留学相談窓口業務、外国人研修生の受け入れ支援など、全面的にバックアップしてきました。富士通JAIMEが日本に設立されたことで、富士通の実践知・ICT技術・ノウハウをJAIMEの活動に織り込むなど、富士通JAIMEと一体となって、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献活動を推進しています。

- [一般財団法人富士通JAIME](#)
- [JAIMEの体験談・記事](#)

## 富士通奨学金制度の運営



1985年、富士通は創立50周年を記念して、日本の文化・社会・経営手法を深く理解し、将来にわたって日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。累計受給者は450名に上っています（2013年4月1日現在）。

当初はJAITSで日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まりましたが、現在は日本以外のアジア太平洋地域18カ国のビジネスパーソンを対象に、富士通JAITSのGLIKプログラムに参加する機会を提供しています。



富士通奨学金受給者たち

この奨学金には、毎回多数の応募がありますが、英語力、学業成績、業務経験などに加え、自国の発展に寄与したいという意志などを踏まえて奨学生を選定しています。募集活動を共同で展開するなど、アジア太平洋諸国で事業展開する富士通グループ会社と連携し、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、自国や自コミュニティへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献しています。

- [Fujitsu Scholarship \(英文サイトのみ\)](#)

## 「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援



富士通は、公益財団法人「数学オリンピック財団」および特定非営利活動法人「情報オリンピック日本委員会」の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック（IMO）への日本代表選手の選抜、派遣に関する事業を通じて数学的英才を発掘し、その一層の伸長を図ると共に、数学教育の国際的視野での改善や発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。富士通は、同財団の設立にあたって、他2社・1個人と共に基本財産を拠出しました。また、IMOへの日本代表選手の選抜大会である日本数学オリンピック（JMO）や日本ジュニア数学オリンピック（JJMO）における成績優秀者への副賞提供などの支援を行っています。



第23回日本数学オリンピック表彰式

また、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理工学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック（IOI）への参加および協力事業を展開しています。

富士通は賛助会員として、その運営を支援すると共に、IOIへの日本代表選手の選抜大会である日本情報オリンピック（JOI）における成績優秀者に副賞を提供しています。

## 高専生を対象としたプログラミングコンテストを支援



全国高等専門学校プログラミングコンテストは、全国の高専生が日頃の学習成果を活かし、情報処理技術におけるアイデアと実現力を競う大会です。

富士通は、同コンテストを1995年の第6回大会から特別協賛企業として支援しており、2009年の第20回大会以降は、企業賞の1つとして「富士通特別賞」を設け、受賞チームに副賞として富士通製パソコンを贈呈しています。

さらに、第21回からは富士通特別賞の受賞チームを川崎工場に招待し、プレゼンテーションと実機を使ったデモや、技術部門をはじめとした社員とのディスカッションの場を提供しています。

富士通社員にとっては高等専門学校生の自由で柔軟な発想に刺激を受ける機会であり、一方で高等専門学校生にとってはビジネス最前線のソフト開発やプロジェクト管理方法を聞くことができるなど、良い相乗効果が生まれています。

同コンテストは、2012年度は福岡県大牟田市で開催され、2013年度は北海道旭川市での開催が決定しています。富士通は、今後もプログラミングコンテストの支援を通して、将来の社会を支える若きICT技術者の育成に貢献していきます。



第23回全国高等専門学校プログラミングコンテストにて「富士通特別賞」を受賞された東京工業高等専門学校の皆さん

## 「富士通キッズプロジェクト：夢をかたちに」



子どもの「理数離れ」が叫ばれている中、富士通グループでは、「次世代の人材育成は企業の使命である」という考えから「ものづくりの楽しさ、技術のすばらしさ」を次世代に伝える取り組みとして、2007年から、小学校高学年の子どもたちを対象とする「富士通キッズプロジェクト」をスタートさせました。

富士通グループでは、このプロジェクトが全国へと広がり、未来へとつながっていく活動とするため、ウェブサイトを1つの基軸メディアとして位置付け、プロジェクトを推進しています。具体的には、専用ウェブサイト「富士通キッズ：夢をかたちに」を設け、その中で、「スーパーコンピュータってなあに？」など最新の技術やものづくりの楽しさを子どもにもわかるような形で伝えるコンテンツや、環境保全活動、ユニバーサルデザイン、さらにはパソコンの仕組みについてなど、学校の授業内容と連動した学習用コンテンツを準備し、子どもたちが楽しく学べるような工夫を施しています。



また、このプロジェクトでは、子どもたちが技術への興味を持ち、夢を育む機会を提供するために、ウェブサイトを通じた情報発信のみならず、ものづくりの楽しさを生で伝えるイベント「富士通キッズイベント」も実施しています。このイベントは、夏休みに合わせて、富士通川崎工場で情報オリンピック日本委員会と共同開催しています。5回目となった2012年度は、抽選で選ばれた約100名の子どもたちが、ゲームを交えてコンピュータの仕組みについて楽しく学びました。加えて、昔のコンピュータが動くところを見学したほか、スーパーコンピュータの技術者たちから直接話を聞きました。最後に、自分が思い描く未来 (tomorrow) について絵や言葉で表現しました。



富士通キッズイベント2012の様子

さらに、2012年10月には、幕張メッセで開催されたCEATEC JAPANの当社ブースにおいて、情報オリンピック日本委員会と共同で手品を交えながらコンピュータの仕組みを学ぶ特別企画を開催し、小・中学生を中心に約100名に参加いただきました。「マジックがおもしろかった」「通信の仕組みと数の関係がおもしろい」「コンピュータやバーコードの仕組みがよくわかった」など、多くの感想を頂きました。



CEATEC JAPANでのイベントの様子

子どもたちにコンピュータを身近に感じてもらうために、これらの活動は今後も継続していきます。

#### 過去の受賞歴

- 「2008年度グッドデザイン賞」受賞  
 子ども向けのコンテンツ作成方法の普及および子ども向けユニバーサルデザインの発展を目的として、「富士通キッズサイト」の構築で得た当社の実践ノウハウを「富士通キッズコンテンツ作成ハンドブック」としてまとめました。2007年12月より、子ども向けサイト「富士通キッズ：夢をかたちに」で一般公開し、良質なコンテンツづくりを目指す多くの方々にご活用いただいています。
- 「環境goo大賞2007」「キッズ部門」優秀賞受賞（エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社主催）
- 「第6回消費者教育教材資料表彰」「ホームページ部門」優秀賞受賞（公益財団法人 消費者教育支援センター主催）  
 ものづくりの楽しさや技術のすばらしさを伝えるこうした取り組みが評価されました。
- 2008年 第2回企業ウェブ・グランプリ「ガジェット、アニメーション&テクニカル・イノベーション部門」のグランプリ受賞  
 子ども向けサイト「富士通キッズ：夢をかたちに」の中の「ユメカタ研究室」などのキャラクターや道具立てのユニークさが評価されました。

- [子ども向けサイト「富士通キッズ：夢をかたちに」](#)

### 高校生科学技術チャレンジ

富士通は、全国の高校生および高等専門学校生を対象とした自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ（Japan Science & Engineering Challenge : JSEC）」の「科学技術創造立国を支える若者の育成」という趣旨にICT企業として賛同し、特別協賛しています。



本コンテストは、内閣府、文部科学省などの後援で毎年開催されており、各界から高く評価されています。優勝者は、毎年5月に世界50カ国以上、約1,500名の学生が集結して米国で開催される世界最大の科学技術コンテスト「ISEF（International Science and Engineering Fair）」に、日本代表として出場しています。2012年度の第10回大会には208件の研究作品が寄せられ、2012年12月に実施された総合審査に30組（12個人、18チーム）が臨みました。

### 富士通コンサートシリーズ

1987年から富士通が協賛している「富士通コンサートシリーズ」は、毎年、世界の第一線で活躍する著名な指揮者・オーケストラを迎え、魅力あるソリストとの共演と共に深い感動をお伝えしています。海外の良質な人気オーケストラを、長く継続的に協賛していくという基本方針の下で開催しています。2012年度は、現代屈指の指揮者ワレリー・ゲルギエフ氏が率いる「マリインスキー歌劇場管弦楽団」の公演が全国で計7回開催されました。



### FUJITSU Presents Special Concert N響「第九」

富士通の特別協賛によるNHK交響楽団の「第九」を中心としたスペシャルコンサート。年末の風物詩として毎年サントリーホールで開催されます。2012年度は12月27日にロジャー・ノリントン氏指揮により開催されました。



### 富士通杯 達人戦

富士通が協賛している「富士通杯 達人戦」は、1993年に創設された将棋界唯一の40歳以上棋士によるシニア戦です。タイトル保持者から現役ベテラン棋士まで、選抜された棋士たちが番勝負のトーナメント方式で「達人」を目指して競います。すべての対局はインターネット中継され、決勝戦は、有楽町朝日ホールでの公開対局となります。20回目を迎えた2012年は4月から9月にかけて対局が行われ、羽生善治二冠が2年連続の優勝となりました。



## スポーツを通じた貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、富士通の積極的なイメージを体現する組織として、日々その技術の向上に努めています。

### 陸上競技部



富士通の陸上競技部は、「世界で戦える選手を育成」をスローガンに、1992年のバルセロナオリンピックから2012年のロンドンオリンピックまで6大会連続で日本代表選手を輩出しています。また、2008年には、JOCスポーツ賞「トップアスリートサポート賞」最優秀団体賞を受賞するなど、1990年の創部以来、常に日本陸上界をリードしてきました。所属するトップアスリートたちは全国各地で行われる陸上教室に積極的に参加し、日本の陸上競技力の向上とスポーツの発展に寄与しています

2012年度は、ロンドンオリンピックの短・中距離および競歩競技に8名の日本代表選手を輩出。また2013年元旦に開催されたニューイヤー駅伝には23年連続で出場を果たすなど、日本陸上界をリードする存在として活躍しました。

#### ・ [富士通陸上競技部](#)



挑戦の支援



地域との共生



© Agence SHOT

### アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」



富士通のアメリカンフットボール部は、1985年に創部され、「アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に」をスローガンに、日本アメリカンフットボール界の開拓者となることを誓い「FRONTIERS（フロンティアーズ）」と命名されました。

社会人東日本選手権である「パールボウル」では、2003年の初優勝を含め、2度の優勝を果たしました。その後も、2007年に社会人日本一を決める「JAPAN X BOWL」へ進出し準優勝、2009年、2011年にも「JAPAN X BOWL」に進出するなどXリーグの強豪チームとして着実に歩みを進めてきました。

また地域貢献活動においては、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、2010年からは川崎市内の小学生を対象に安全に気軽に取り組めるフラッグフットボールを体育の授業で指導するなど普及活動に取り組んでいます。

#### ・ [アメリカンフットボール部「FRONTIERS（フロンティアーズ）」](#)



挑戦の支援



地域との共生



© Agence SHOT

## 女子バスケットボール部「レッドウェーブ」



富士通の女子バスケットボール部は、1985年の創部後、赤い波が強豪チームを脅かす存在となることを目指して「RedWave（レッドウェーブ）」と命名。2006年の第72回全日本総合バスケットボール選手権（皇后杯）で初優勝を飾ると、2008年まで三連覇を達成し、2007年度の第9回Wリーグ（WJBL 2007-08）では、悲願の初優勝を果たしました。また、2005年以降は8年連続でプレーオフに進出し、Wリーグ屈指の強豪チームに成長しています。2012年度はWリーグ3位となりました。

社会貢献活動では、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、川崎市内の小学生を対象に体育の授業で実技指導を行う「ふれあい教室」を開催し、地域でのスポーツの振興とバスケットボール界の底辺拡大に努めています。この「ふれあい教室」は、2004年から9年間継続して実施しており、2012年度は10回実施しました。

- ・ [女子バスケットボール部「RedWave（レッドウェーブ）」](#)



写真提供：NANO Association

## 川崎フロンターレの活動を支援



川崎市をホームタウンとする[川崎フロンターレ](#)は、1999年にJリーグに加盟し、プロサッカー事業の展開、地域の青少年の育成やスポーツ文化発展に貢献する活動に取り組んでいます。

また同チームは、2011年の東日本大震災直後から「Mind-1ニッポン」プロジェクトを立ち上げ、被災地の中長期的な復興支援活動に継続的に取り組んでいます。



© KAWASAKI FRONTALE



### 富士通レディースゴルフトーナメント

富士通が主催する「富士通レディースゴルフトーナメント」は、1980年にプロアマの大会としてスタートしました。1983年からはLPGA公認ツアートーナメントとして、毎年10月に開催されており、女子ゴルフ界では歴史ある大会の1つです。2012年度は第30回記念大会として10月12日から14日にかけて開催され、96名の選手が出場しました。



### 出雲全日本大学選抜駅伝競走

日本三大大学駅伝の1つに数えられる「出雲全日本大学選抜駅伝競走」は、1989年より開催されており、毎年全21チームが熱戦を繰り広げます。富士通は当大会への協賛を通じ、学生スポーツの健全な発展を支援しています。2012年度は10月8日に開催され、青山学院大学が優勝しました。



### 飲料販売を通じた熱帯雨林再生活動の支援

富士通グループでは社会貢献・環境活動への取り組みの一環として、富士通のプライベートブランド飲料を社員向けに販売し、その売上の一部を「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」における熱帯雨林再生活動に充てています。同飲料は2009年の販売開始から2012年度末までの累計で約154万本を売り上げ、社員一人ひとりの環境社会意識の向上にもつながっています。

### グループ社員による社会貢献活動

富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手を回収し、それらの収益金をポリオワクチンや苗木の寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に自主的に取り組んでいます。

この一例として、富士通汐留本社の社員有志は、2012年12月、南アジアでボランティア活動を展開する国際NGO「シャプラニール」（市民による海外協力の会）を支援する活動として、書籍・DVDを回収・売却しました。今後、全国のグループ拠点にこの活動を広げ、継続して支援していく計画です。

## 国内／海外の活動事例

富士通グループが国内／海外で行った社会貢献活動に関する事例です。

### 国内 社会貢献活動事例

東日本大震災の被災地仮設住宅でパソコン講習会を開催  
ニフティ株式会社



ニフティ株式会社は、宮城県山元町仮設住宅内の集会所に、いつでもインターネットが使える環境を整えました。また、「やまもとICTコミュニティカレッジ」計画に賛同し、社会情報学会と共同でパソコン講習会を開催しました。講習会では、復興計画情報の閲覧、挨拶状の作成、ソーシャルネットワークサービスを活用した情報発信などについて説明し、また地元中学生にも講師アシスタントとして参加いただき、幅広い世代の交流の場ともなりました。



今後も富士通グループは、仮設住宅や避難先で暮らす人々が、ICTを活用して離れた家族や仲間と連絡を取り合うことによる地域コミュニティ再生を支援していきます。

地元中学生の協力の下で開催されたパソコン講習会の様子

官民協働のオープンデータ活用による観光振興への貢献  
株式会社富士通システムズ・イースト



昨今、個人旅行の増加に伴い、地域の埋もれた魅力など、より深く地域を味わうための情報提供が求められています。

株式会社富士通システムズ・イーストと青森県は、官民相互に無償協力協定を締結。公共団体の観光情報をオープンデータとして当社「観光クラウド」上に展開し、周遊ルート案内サービスを青森県内の観光サイトで利用するなどの取り組みを進めています。2013年5月までに県内30の観光サイトに展開し、青森県の見知らぬ魅力を発見するなど旅行者の受入態勢整備に取り組んでいます。



青森県の周遊ルート案内サービス

今後も富士通グループは、官民協働による観光振興と、オープンデータ活用を推進していきます。

市民参加型の地域課題解決活性化を支援  
富士通株式会社



名古屋市様では、市民のICT利活用能力向上とそれに伴う社会参加促進による地域課題解決を目指しています。

富士通は今般、名古屋市様主催の「市民記者育成プロジェクト」に参加し、ICTを活用した情報収集・発信の手法に関する「市民記者育成講座」を開催しました。

ソーシャルネットワークの発達によって個人の情報収集・発信能力は飛躍的に高まり、ネットワークを介した協業・協創によるイノベーションが生活の様々なシーンに新たな可能性をもたらしています。富士通は今後も、ICTで人々の能力のエンパワメント（向上）と地域課題解決に寄与していきます。



市民記者育成講座の様子

「NGOサポート募金管理システム」構築によるNGOの支援者拡大に貢献  
株式会社富士通システムズ・イースト

世界の貧困問題に取り組む国際協力NGOセンター（JANIC）様では、手動で行っている様々な事務作業の自動化による業務拡大が課題となっていました。

株式会社富士通システムズ・イーストは、JANIC様の「NGOサポート募金管理システム」を構築。集計・配布通知の自動化による業務効率化を実現し、JANIC様の支援者拡大に貢献しました。

富士通グループは今後も、ICTによるNPO/NGOの基盤強化を通じて、社会貢献活動の活性化を支援していきます。



JANIC様スタッフ

## 海外 社会貢献活動事例

### タイ洪水被害からの復旧における人的・技術的支援 富士通株式会社



2011年10月にタイ全土で発生した大洪水は、約3.5兆円もの被害をもたらし、被災後半年経過した2012年3月時点でも工場の事業再開率が約70%にとどまるなど、現地の生活とビジネスのサプライチェーンに大きな打撃を与えました。

このような危機に直面し、富士通では、現地50名のフィールドエンジニアに加え、東日本大震災の復旧活動経験者のべ14名を日本から派遣。被災した企業へのデータセンターとサーバの無償提供をはじめ、クラウドを活用したお客様システムの状況管理などを行い、294社の保守・復旧を支援しました。

今後も富士通は、被災地域の復興と再生にICTの力で貢献していきます。



洪水発生時のタイ現地の様子

### ホームレス支援組織とのチャリティー・パートナーシップ 英国：富士通UK and Ireland



英国では、過去3年間にホームレスが25%増加し、住環境の整備や提供が課題となっています。

富士通UK and Irelandは、2012年、英国で最大規模の住居支援を行う非営利組織Shelter様をチャリティーパートナーに選定しました。今後2年間にわたって、同組織が運営するチャリティーショップ拡大への寄附やイベント参加による認知向上のほか、住居支援アドバイスのためのネット環境構築や組織運営に関するアドバイスなど、富士通グループならではのスキルとICTを活用した支援を実施していきます。



ロンドン市長と共にチャリティーイベントを祝う